

令和4年度第1回大磯町地域福祉計画策定委員会 議事録要旨

【議事要旨】

1 大磯町地域福祉計画の策定概要・スケジュールについて

事務局：資料1・2に基づいて説明。

委員長：重層的支援体制整備事業を創設が掲げられているというのは、重層的支援体制整備事業も含めていくということか。

事務局：重層的支援体制整備事業も含めて計画に入れていきます。

委員：今の説明の中に、今回の策定にあたり、上位計画や大磯町の4つの柱が示されているが、上位計画の資料を出していただきたい。

事務局：大磯町第5次総合計画を印刷して、各委員に後日郵送いたします。

委員：上位計画の第5次総合計画の下に地域福祉計画があります。そのため、下の健康プランや、子ども笑顔かがやきプラン、障がい者福祉計画などの4本の柱の上に福祉計画があるので、その4本も郵送していただきたい。

事務局：関係があるすべての計画を各委員に後日郵送いたします。

委員：社会福祉協議会の地域福祉活動計画と連動してやっていくという話があるが、社会福祉協議会で動いているのか。

事務局：地域福祉活動計画は社会福祉協議会が策定しており、社会福祉協議会に確認しながらになるが、どこまで動いているかわかりません。

委員：松田町の計画を見みたと、総合計画と地域福祉活動計画が並行して動いています。そこから、地域福祉活動計画も合わせて教えていただけないと地域福祉計画の策定できないと思います。また、今大磯町で活動している重層的支援体制整備事業について教えてください。

事務局：重層的支援体制整備事業ですが、現時点ではつながり事業として動いております。

委員：重層的支援というのは縦になっているものを横にして、重層にしてミルフィーユのようにつなげていくという考えです。そして、それをやっているのがおそらくスポーツ健康課だと思いますが、動き出しているのであれば、その計画も併せて教えてください。

委員：地域のつながり事業ということで、昨年度のコロナワクチンの接種もあり、実際に動き始めたのは昨年の12月頃です。地域のつながり事業というのは、スポーツ健康課の保健師でやっていますが、地域の中の支援を求め声を上げられないまま引きこもり、孤立している方に孤立する方に対応する事業となります。流れとしては、対象者の現状、地域の現状を把握しよう、その次に保健師等の専門職の個別訪問を進めていきながら、対象者とのつながりの中で、改善に向かう糸口を検討、そしてそのなかで必要な医療、福祉サービスや制度でつなげ、その方が地域に出られるような参加を促し、地域とのつながりを回復させ、段階的にその方の自立した生活に向けての支援をしていくこととなります。この内容を見ていると、広いところですので、重層的支援体制整備事業と被っているところが大きいと思っています。ただ、これについては今スポーツ健康課の保健師でやっているの、自分たちなりの解釈を入れながら、星槎大学の先生にもご協力をいただきながらスポーツ健康課の保健師、そして対象者の実態把握ということで、町の保健師は今まで事業分担でし

たが、地域に出ていきましょうということで、今民生委員さんと一緒に地域に出て、民生委員さんがこの方が心配だという方について一緒に訪問するところから始めています。実際に 8050 のお宅もありましたし、すぐにでも支援につなげないといけない方もいました。では支援につなげるといったときに、この町内の体制というものにぶち当たりました。私たちは保健的な部分が多かったので、福祉的なサービスや縦割りというのを、改めて庁舎内で感じています。ここをどうしていくかというところを話し始めたところで、庁内の相談窓口を持ったところで、2、3回話をして課題が見つかり、私もつながり事業という題名はついていますが、今の地域福祉計画の中に、いっしょに歩いていくことを強く感じていて、地域づくりやその方なりの地域につなげていくことを考えたときには、社協と足並みを合わせてやっていかないといけないのではないかと。あとは、地域福祉推進委員や地区にいらっしゃる方も足並みを合わせないといけないということ、民生委員とお話しながら、保健師がそう感じた中で、これからどのようにしていくかということで、ぼちぼちと色々な課題が地域に出ることで体感しています。実際に 8050 のお宅に行き、福祉は何か起きたときに手を差し伸べるイメージでしたが、福祉も予防ではないかということを感じました。訪問に何軒か行った中で、別の方向から同時に支援が入ったこともありました。かかりつけの先生や、ケアマネだったり違うところから支援の手があり、セーフティーネットが貼り巡っているという実感しました。計画と一緒に歩みながらつなげて、まず地域のつながりですが、町内のつながりも大事でありじっくりやっていますが、地域のつながり事業ということで、実態把握を民生委員のほうと一緒にとおもさせていただいて、町内で話を始めました。

委員長:この度医師会の方から入っていただき、強力なネットワークになるのではないかと思います。先走りですが、アンケートの暮らしのことにしてもモニターの医師のアンケートがあつてびっくりしましたが、常日頃から医師に相談している背景があるからこそういふアンケート結果になるのではないかと思います。

委員:次のスケジュールにある課題等の報告、ここはどのようなことを想像されていらっしゃるかを伺いたいと思いましたが、既にご意見を伺った中で思いましたが、例えば 8050 にしても、既に高齢者の計画や児童の計画もそっちで対応すればいいのではということではすまないことが、この計画を上位に入れようという意味だと思います。ですが、そういう実感は町民の方や私たちは持っているのかというところがあります。実感が無いことには、説得力があるものがでてこない気がします。その実感を生み出すための課題の報告ということだったらいいなと思っていますが、実際に障がい者の方々に出る問題については、色々なことが私たちも情報としてあります。ただ 8050 と言われても、一部の障がいにかかわる人間は知っていますが、それ以外の障がいに関わる職員は知りません。それと児童や障がい者の虐待については多分、高齢で働いている方は知らないだろうと思います。この町ではどのようなことが起きているか、あるいは町に限定しなくても、大磯町でも同じことが起きるだろうという想像できることがいろいろな分野でたくさんあると思います。生活困窮も人数が多いと思っています。私たちはこのメンバーはそのあたりを共有したうえで、その計画の上に、そこに網をかけるような計画が必要という認識がいます。上位計画というのは、例えば、共通して全員で取り組まないといけないテーマがあるから上位の計画を作るという、それぞれの計画がすでにあるのにその上にあるということはそういうことだと思います。その必要性が実感できるいいなと思っています。

委員：大磯町が福祉課だけではなく町民課や、それから子育て支援課など色々なところが関わっています。大磯町の課は今どんなことを福祉の関係で取り組まれているか、それを示していただきたいです。それから今は何を課題と思っているのか、そこを今回の計画を立てるときに大磯町が出来ていないことが見えます。そういったところから新しい政策ができるのではないかと思います。

事務局：それぞれの課がやっている福祉のことということで、都市計画で言えばバリアフリー等がありますが、今後計画を策定するにあたり調整を行っていく必要があると考えています。

委員：下手すると自分と関係ないということでやっていないところがあるかもしれません。すべての行政の事業というのは、すべての課が福祉に関係していると思います。ですから、何をやっているのかをチャートで示して、話し合いを進めていきたいと思っています。

2 大磯町地域福祉に関するアンケート調査結果について

事務局：大磯町地域福祉に関するアンケート調査結果報告書に基づいて説明。

委員：調査の対象が大磯町民 2000 人とあるが、同一世帯の方がいらっしゃるのか、世帯別で 2000 人か。

事務局：現状無作為に出しているの、世帯がかぶってしまう部分があるかもしれないが、なるべくそうならないようにしている。

委員：極力同じ住所に送っていないような理解でいいか。

事務局：おっしゃるとおりです。

委員：このアンケート調査の回答率が半分程度ですが、回答されない方はどういう考えなのかが見えない。むしろ回答されていない方が課題を抱えている可能性が高いと思いますが、毎回同じようなアンケート調査をされていますか。それからアンケート調査の結果から得られた課題について事務局でどう考えているのか教えてください。

事務局：計画を策定する前に町民の方へアンケート調査を行い、その意見、現状や課題などを計画に反映させていきます。例えば高齢者福祉計画、介護保険事業計画などもアンケート調査を事前に行い、その結果を踏まえて計画にしていくのが流れになります。また、回答がない人に対してですが、どういう課題を持っているのかはわからないというのは確かにあります。ただ、そういう人にも少しでも回答率を上げていきたいと思っていますが、現状では 40% 台の回答率ですので、今回の回答結果から次回8月の委員会の時に課題の報告をしたいと思っております。

委員：さっきお尋ねしたが、このアンケートの結果から、私には課題が見えてこないです。策定された計画に対して、どういう課題がこのアンケートから得られた、それについて伺えればと思ったのですが。

事務局：現状、事務局の方としまして、アンケート調査から課題を分析していますので回答できません。

委員長：アンケート調査に関しては、社会調査という形で回答率が3、4割は一般的で、こちらは5割ほどであり、アンケートとしては高いのではないかと思います。学校や生協に対してやるときは8、9割になると思います。むしろこぼれているところは個別ケースとして聞くとか、別の方法、ヒアリングなどの方法がありますので、それを合わせてやっていく、それは先ほどのつながり事業にありましたものも併せて資料として載せると、計画の中で活かせるのではないかと思います。ご質問の方では、分析というのが大事になってくると思いますが、こちらの分析としても、出した数字の中からどのよう

なことが見えてきているのかなどもお話いただけるとありがたいです。

委員: 同じ質問になりますが、スケジュールにある、課題の検討というのは、アンケートから整理されているとおっしゃいましたが、アンケートから導き出される課題や問題点についてお示したものをここで意見交換するイメージでしょうか。

事務局: 先ほど委員から要望がありましたが、具体的に町内の福祉事業に現状について、質問してどういった課題があるのかをプラスアルファで出していただけると考えています。

委員: 是非そうしていただきたい。アンケートから素人にはわかりませんが、私を感じるの、それぞれの機関の方が感じているような困難性をリアリティとして持っている町民の方は少ないということが分かったという実感があります。そうでないかもしれませんが率直にそう感じました。そんな中で計画を作っていくエンジンにはなりにくいと思いますので、どういった課題があるのか、問題点があるのかをぜひ多角的に見てくれるとありがたいです。

委員長: 先ほどの課題をメンバーで共有するとか個別のケースや課題を挙げていくような仕組みなどがありますか。例えばこのメンバーの中で、課題を挙げていただくということもあり得ますか。

委員: 課題というのは、私は事例だと思います。事例をどれだけ出せるかというところで、その事例をもとに皆さんがどう感じるかが起点になると思います。例えば 2000 人の方は色々な事例に触れていると思いますし、重要事項もあると思います。そこは福祉課に限らないことだと思います。このあたりの事例もできるだけ並べていただけるといいと思います。

事務局: アンケートだけではなくて、色々な事例を見てほしい部分がありますので、そういった課題を抽出するために、町の職員に聞いてみるのも一つですし、今はまだ決まっていませんが、委員にアンケートを取って、課題を挙げてもらうのも一つの手ではないかと話しましたが、そういうのをこれから検討して、短期間になるかもしれませんが、回答していただければと考えておりますので、アンケートの回答をよろしくお願いします。

委員: 各委員にアンケート調査の話があって、私は高齢課題である居宅の介護施設が案外困難事例をいっぱい持っていると思います。困難事例に関してのすべての話し合い、問題症例を定義して、町の問題課題を抽出しようと言っているのが地域ケア会議で、包括さんがやっている会議です。包括さんは現在支援の介護をいただいている方たちを主体としたケアサービスを行っていますが、すべての居宅の介護事業所も含めてすべてを把握しているのは包括さんなので、このあたりだとウエストン介護事業所の集まりにも、アンケートを広げていけばどうかと思います。この地域福祉に関するアンケート調査というのは、町民の希望と要望の声を出せた方たちだと思います。声を出したくても出せない人たちに関しては、何らかの対応をしていただきたいです。これを原則として、地域福祉活動計画に生かしていただきたいです。これは町民一体の計画ですので町民の希望です。あとは大磯町の福祉の方やすべての方たちが、大磯で生まれ育ってそこで事業所やっている方も、住まいは町外でも大磯の街で暮らしてみようと思えることはあります。おそらく福祉課の方たちもそうだと思いますが、自分が育った町をどうしたいのか、町の職員のビジョンはどうなのか。地域包括ケアシステムをやるにあたって、こういうものの計画も必要になってきます。町の職員や福祉課も含めて、大磯町をどうしたいのかというビジョンを知りたいと、アンケートの中に委員も含めてだと思いますが、どういう町にしたいのかという思いがあり、計画の前にみんなが何を望んでいるのか、何が足りないのか、

問題点は何か、アンケート調査から見えてくる大磯町の事務職が考えた、町の課題がここから見えてこなかったのかと思いました。それを私たちも感じましたし、それから町の課題としていったいなんだったのか、5割の人は答えを出していますが、声を出せない人も同じくらいいます。声を出せない人がこの地域福祉に欠かせない人だと思います。だからそれを課題として挙げてほしかったと町の職員をお願いします。

委員長:現場の課題がなかなか見えていないからこそ、つながり事業でも、つながりがあるひとはいいが、つながりのない人にどうアプローチしたらいいか大きな課題だと思いますので、色々な立場から参加している方がいらっしゃる的那种なアプローチできるような形になれるといいと思います。

委員:民生委員が高齢者の方に訪問すると、当の高齢者の方の願いは、人の世話にならないで家で死にたい、これが願いであり、理想の死です。家で寝るのは、暖かい家族と雰囲気があって、見守られて、地域や周りの方がやさしいからそこに住めて幸せに死ねます。死ぬ時も家族やみんなに見守られて死ぬのが理想です。それともう一つ、親が生んで、一人だけでは子育ては出来ません。一人で育てると色々なトラブルがあって、不安になって虐待を起こしたり精神的に疲れるのは当然です。それはどうしたらいいのかというと、家族が協力して、周りの人が協力して今より愛され、子どもを愛する、そういうことがない。生まれたときと死ぬとき、不安をなくす計画を立てることが大事だと思います。

委員:同じ話ですみませんが、課題を出すときに、お金の話を出していただいたほうがいいと思います。福祉にかかる費用がこの10年高くなっていると思っています。支える視点から考えるときに、避けては通れないと思っていて、そのあたりも主体のところを示していただければいいと思います。

委員:健康プランおおいそや大磯子どもの笑顔かがやきプランの地域福祉計画についても、策定していきますが、児童虐待の肝心のお子さん等、自分自身の権利を大切にされないような背景があります。そういった計画等についても、自分の権利について知るということにつながってくると思いますので、どういう風に伝えるかがテーマだと思います。これは今現在、私は子どものプランの配置になっているので、子どもの笑顔かがやきプランをどのように周知するかです。例えばこのアンケートにありませんが、こういう計画があるということを知ったうえで答えている方と、知らないで答えている方がいます。実際福祉はサービスとしてありますが、そのサービス自体は知らないという方にいかに届けるか、そのために特に未成年の皆様についても、せつかくあるものをいかに知っていただくか、そこのハードルを越えない限り支援にはつながっていかないとしますので、どのようなお考えか。

事務局:周知につきましては、笑顔かがやきプランの周知についてはわかりませんが、一般的には議会に報告させていただいて、HPや広報でお知らせをすることになります。

委員:子ども笑顔かがやきプランについては、令和2年度に策定したもので、令和6年までの5年間の計画ということです。当時の周知状況は把握できていませんが、事務局の方でもそういった形での周知はされてきたと思います。これからも心がけていきたいと思っていますので、またよろしく願います。

委員長:まさに今回のアンケートにも表れているところで、4ページの間29も、HPに書いてあるだけではどこに申し込めばいいかわからなかったというところを合わせると30%近くになります。すごく難し

いところなので、工夫が必要なことだと思いました。ボランティアにしても何にしてもそうですが、やるきはあるのにどこで活動したらいいかわからないとか、してないわけじゃないがそれをどういう風にわかるような形で、やる気はあるのにどこにも当てはまらないというのはわからない感じもしますので工夫してください。

委員:子育ての周知についてですが、子育てパンフレットがありまして、大磯町で生まれた全てのお子さんがある家庭に配布されていて、色々な資料があります。これはすごくいいと思っています。

3 その他 特になし

4 次回会議

今後の策定委員会の開催予定は、後日、日程調整を行うが8月下旬から9月上旬に開催予定。